

JAAF MIE

# 三重陸協会報

第4号

三重陸上競技協会



事務局・〒516-0023 伊勢市宇治館町510 (三重県営総合競技場陸上競技場内) TEL・FAX 0596-22-8890 URL:http://mierk.jp/ MAIL:info@mierk.jp

## ごあいさつ

三重陸上競技協会 会長 豊田利一



2020年に東京オリンピックの開催が決まりました。国内でスポーツに対する関心が高まり、国立競技場をはじめとする施設の整備と選手の強化が進められていくこととなります。三重県でも、オリンピックの2年前にインターハイ、翌年には国体が開催されます。それに向けて、本県でも競技場の整備、審判員の確保と資質向上、地元選手の活躍のための選手強化が大きな課題となつてきます。オリンピックに向けて国内が盛りあがる中で、全国大会の開催は、三重陸協の力を示すいい機会になります。三重県からオリンピック選手の輩出、地元大会での優勝、大会の成功を実現させたいものです。

昨年末から今年にかけて、駅伝で素晴らしい活躍がありました。全日本実業団女子駅伝でデノンが大会新記録で初優勝、全国高校駅伝では伊賀白鳳高校

がトラックまで優勝争いをして2年連続の3位、そして、この2チームを中心に編成された都道府県対抗駅伝では、男子が7位入賞、女子も15位と健闘しました。また昨年は、世界選手権に小林雄一選手と本県出身の尾西美咲選手と野口みずき選手が出場。世界クロスカントリー選手権、アジア陸上競技選手権、ユニバーシアード、世界ユース選手権などの国際大会にも日本代表として本県の選手が出場しました。このことは、これまで進めてきた選手強化の成果ととらえ自信をもって次の一歩を踏み出していただきたいと思います。

そうした中、昨年本協会顧問の村島論明氏が亡くなられました。監督として三重インターハイで宇治山田商業の女子総合優勝、三重国体・佐賀国体で優勝を成し遂げ、三重陸協理事長・会長を歴任され、日本陸連でも発言力おもちでした。ご冥福をお祈りするとともに、三重県を日本一にすることが、その遺志を継ぐことになると 생각합니다。その実現に向けて、努力していく所存であります。

## 2014年年頭のご挨拶

三重陸上競技協会 理事長 松澤二一



2014年の年頭のご挨拶を申し上げます。

昨年度末には、全日本実業団女子駅伝大会で本県陸上競技界念願の日本電装の優勝。また、全国高校駅伝大会では、男子伊賀白鳳高校が最終区西京極陸上競技場内での接戦で惜しくも第3位入賞という結果を残してくれました。年明け早々、全日本実業団男子駅伝大会で2014年の陸上競技の幕が空きました。NTNが前半トップ集団でタスキをつなぎながら後半に力尽きてしまう残念な結果となりましたが、NTNの存在を見せつけてくれた大会となり

ました。続く全国都道府県対抗駅伝大会では、女子では昨年の14位から1つ下げる15位という結果となりました。今年は、中学生が頑張ってくれこれからの長距離に活を入れてくれる効果を期待したいと思います。男子は、ケガによる選手変更もあつて7位入賞となりました。特に中学生の活躍が目を見張るものがありました。しかし、本県の最高記録を更新しながらも、上位入賞には届かなかつたものの、各県との力も伯仲しており、各県と力も伯仲しており、各県との力も伯仲しており、各県との力も伯仲しております。このシーズン最初の滑り出しに乘じ、来るべくトラックシーズンでも三重県勢の勢いを止めることなく躍進していただきたいと思います。さて、三重インターハイまであと4年。三重国体まで7年と

なりました。競技場の改修・選手強化・大会運営等の数多くの課題も山積しております。選手強化をすることは当たり前ですが、これからの国体・インターハイの中心選手となる小・中学校の選手育成が大きな効果をもたらすこととはご存知のことだと思います。山本浩武先生(松阪商)を中心とした普及・育成部が県下を回りながら、競技力を向上させるべく練習会を計画しております。まずは練習会等への参加を頂き、選手強化と技術指導及び選手発掘にご協力ください。

また、中学・高校の指導者におかれましては、1校に最低1人の選手を強くしていただければ、非常に大きな戦力になります。4年後・7年後と言ってもすぐそこに来ている。インターハイ・国体に優勝の文字を刻みたいと思います。これから、一層のご協力、ご尽力を賜りますようお願いいたします。

### ご協賛をいただいた企業

- 学校法人 高田学園
- 桑名スポーツ
- 魚定
- 更スポーツ
- スポーツショップ四日市
- 株式会社 まるかつ
- ぎゅーとら
- 麻野館
- 山本整骨院
- 八千代工業株式会社
- NTN株式会社
- 株式会社デンソー
- 長谷川体育施設株式会社
- アシックスジャパン株式会社
- 株式会社 ニシ・スポーツ
- 株式会社 クレーマージャパン
- 岐阜経済大学
- 鈴鹿医療科学大学

(敬称略)

### 日本陸上競技連盟栄章

東京国体期間中、2012年度秩父宮章・高校優秀指導者章・中学優秀指導者章の表彰が行われました。

- ◇ 秩父宮章 松澤 二一氏
- ◇ 高校優秀指導者章 安田 寛氏
- ◇ 中学優秀指導者章 野呂 京司氏

各地区陸協報告

桑員陸協

昨年はいなべ市内にチームのある株式会社デンソーが全日本実業団女子駅伝に出場し、みごと優勝していただき、喜ばしい1年であった。

桑員陸上競技協会としても、多くの全国大会出場選手を輩出していきたくところであるが、小学校、中学校、高校共に低迷している状態が続いており、各校で強化に取り組んでいただいている状況である。

特に中学校の指導者不足から、強化に繋がらない事を鑑み、東員町スポーツ公園陸上競技場において桑員地区内の中学校指導者及び選手を対象に合同練習会を実施し、選手の強化のみならず、指導者の育成、練習方法の指導を実施した。

平成26年度も引き続き、継続していき中学校の指導者の育成、選手強化を行う必要があると考え

三重国体、三重インターハイ開催において若手審判員の育成が急務となっており、桑員地区においても審判員数の減少から、若い審判員の育成をしていく必要がある、高校卒業者を審判員として登録することにより、三重国体等で活躍できる審判員の確保が可能となるため、各校に協力いただき、育成していく必要があります。

事業の開催の他、選手の強化、普及及び、指導者、審判員の育成を充実してまいります。

三泗陸協

1月に開催した三泗小学生タスキリレー大会を最後に本年度の競技会をすべて無事終了いたしました。ソフト面では、小学生から高校生までのそれぞれの校種において多くの生徒が三重県代表として全国大会に出場し健闘してくれました。特に、四日市四郷高校の坂倉杏奈さんが全国高校総体の4位入賞を始め国体やジュニア選手権大会においても入賞と活躍してくれました。

三泗地区の中学校においては約半数の学校に陸上競技部がなく、数年前の全国高校総体や国民体育大会の地元開催にむけて特に中学生の指導体制を強化していく必要があります。三泗地区においては、今までもいくつかのクラブチームによる熱心な活動のおかげで成果をあげてきてくれましたが、協会としても更なる充実を目指して昨年の4月にクラブチームを発足させました。強化委員会のメンバーを中心に、週3回から4回の練習会を実施しています。練習方法や中学校との連携等においてまだまだ課題は山積していますが、生徒たちが少しでも陸上競技に打ち込めるよう創意工夫を重ねながら、普及の面においても取り組んでいきたい所存です。

ハード面においては、競技場のナイター設備設置が実現する運びとなり、4月からは夜間においても競技会や練習が可能となります。9月にはナイター設備使用を

前提とした長距離記録会も実施の予定です。また、緑石の取り替えやハードルの軽量化等、県大会レベルの競技会でも円滑に運営ができるよう、今後も施設の充実に努めたいと存じます。

鈴鹿陸協

石垣池競技場の公認継続更新が無事終了し、整備された競技場で今年度の各大会も1000名を超える参加者で大いに盛り上がり、各年代で全国大会出場者をたくさん排出することが出来ました。

鈴鹿市の各学校から、小学生では女子走高跳で後藤永実奈選手(稲生小)が全国大会に出場しました。

中学生では男子が1000m、2000mで中脇裕也(神戸)選手、4000mで愛敬虎之介(天栄)選手、1100mHで原佑治(平田野)選手、女子では2000mで江平春花(神戸)選手、走幅跳で飯田百花(神戸)選手の2名、並びに神戸中学校女子が4000mRで全日本中学選手権に出場し、中脇選手は夏の通信大会で三重県では初となる1000m10秒台の大会新記録を樹立しました。

高校では4000mで藤田尊大(鈴鹿高専)選手、走高跳で加藤健太郎(鈴鹿高専)、円盤投で三村武司(稲生)選手、奥野芳佳(稲生)選手が全国高校総体に出場しました。鈴鹿出身で市外の高校に進学した選手達もインターハイや駅伝で活躍してくれました。

一般では走高跳で衛藤昂選手(筑波大学)、走幅跳で井村久美子選手(イムラアスリートアカデミー)が、日本選手権で上位入賞し、衛藤選手は東京国体では大会

タイ記録で優勝されました。また、年末に開催された全国中学駅伝には神戸中学男子チームが昨年に続き2年連続出場するという快挙を成し遂げました。これらの活躍も現場の指導者をはじめ関係団体のお力添えのたまものと深く感謝いたしております。

亀山陸協

今年も1月の「かめやま江戸の道シテイマラソン大会」に近隣の高校や団体も多数参加をいただき、1,741名の参加者でした。

1,000名足らずの大会から今年22回大会にして約2倍の参加者数になってきました。その中でも亀山市民は1,000名を超える参加人数となり、市民の中にもスポーツに対する関心と体力の維持向上のため、何らかの運動をする方々が増えてきており、このシテイマラソンに出場しようとする熱意を嬉しく思います。

昨年の競技会でも、市内の企業、中学、高校及び小中学生の陸上クラブ「JAC亀山」の選手が県内の大会で上位入賞するなどの活躍がみられました。今年の三重タスキリレー大会に「JAC亀山」は念願の入賞を目指して挑みました。

全国の大会でも昨年末の全国高校駅伝男子、県高校新記録で第3位に入賞した伊賀白鳳高校は3区間で区間賞でしたが、その1人第6区を走った下史典君は亀山中部中学校出身であり、全国大会でそ

の役を担って大活躍してくれています。

また、「美し国三重市町対抗駅伝」では第5回及び第6回大会と連続入賞し、連帯感も強まる中、今年更に上位目指して出場しました。

審判の人数は少ないですが、シテイマラソン大会の他に小学生の陸上競技会、スポーツ少年団体の駅伝大会、亀山市駅伝大会等を開催しています。亀山高校の生徒さんや先生方及び各団体の指導者の方々にもお手伝いをいただいで運営しています。

東京オリンピックも決定し、その翌年の三重国民体育大会開催とスポーツ気運の高まる中、そのビッグ大会に活躍できる選手の育成にも各団体と連絡を取り合いながら努めていきたく思っています。

津陸協

津地区は約70名の審判員からなり、陸上競技の普及・強化を主な目的として記録会・大会・スポーツ教室等を開催しています。

平成25年度は、津地区から念願の日本一のアスリートを2人輩出することができました。全日本中学校陸上競技選手権大会男子4000mで山本フェビアスくん(西橋内中)が優勝し、全国小学生陸上競技交流大会で須川真衣さん(一志Beast、立成小)が女子5年1000mで優勝しました。山本くんは津陸上クラブで陸上競技の楽しさを味わい、もっと速く走りたいという思いを胸に中学校の部活動やASSA・TICでの練習を積み重ねた成果が出たものであり、須川さんは、一志Beastでの練習の成果が出た

ものです。それぞれ小学校・陸上クラブでの活動からの成果が開花したものであり、関係の皆さんの日々のご指導やご支援に敬意を表します。

また、日本選手権女子砲丸投で茂山千尋さん(国士館クラブ)が第2位、男子円盤投で小野真弘くん(筑波大)が第8位、全国高校総体男子走幅跳で松岡修平くんが第3位(世界ユース陸上競技選手権大会走幅跳第4位、国体少年A走幅跳第4位)、全国小学生陸上競技交流大会男子5年1000mで中垣内太智くん(一志Beast、西が丘小)が第3位に入賞し、全国高校駅伝では川戸拓海くん(伊賀白鳳高)が区間賞を獲得するなど、津地区および津地区出身の選手たちが全国大会で活躍してくれました。

津地区には、公認の陸上競技場がなく、25年度も伊勢度会、鈴鹿、三泗、松阪など多くの地区陸協さんの暖かいご配慮により大会や記録会を実施させていただきました。心よりお礼申し上げます。平成26年度もこの状況は続きます。よろしく願い申し上げます。

津市へ競技場新設への要望を継続して行い、平成30年高校総体、33年国体の三重県での開催に向けて、さらには2020年(平成32年)の東京オリンピックに向けて、小中高の連携を深め、さらに陸上競技の普及・強化に努めていきたいと考えています。

松阪多気陸協

今年の成果については、小学生チームが増え、小学生の部員数が増えたいへん増えたことがあげられます。これは、今後の松阪陸協に

# 平成25年度国体・都道府県対抗駅伝報告

## 平成25年度 第68回国民体育大会（東京国体）

天皇杯は55.5点で12位、皇后杯は37.5点で13位でした。  
 成年男子走り高跳びで筑波大学の衛藤選手が2m27の県新記録、成年女子5000mで世界陸上代表の尾西選手（積水化学）、少年女子Aハンマー投げで油谷選手（相可高校）の3名が見事に優勝を飾ってくれました。  
 この優勝者を含めて男子6名、女子5名の11名が入賞しました。昨年度の女子は、わずか1名の入賞のみでしたので、今年度は、女子の活躍が目立ちました。

## 皇后杯 第32回都道府県対抗女子駅伝 15位 2時間20分10秒

12月にデンソーさんのご厚意で中高生を集めた合宿を実施して、成果が表れました。成年選手の頑張りを中高生もよく粘り、つなぎの駅伝をチームワークの良さで実現してくれました。  
 若松勉監督  
 「今までの三重県の流れとはちがい、中高生が10位台で安定して走ることができ、みんなで駅伝ができた。高校生も2年生が多く若いチームなので来年以降の成長が楽しみである。」

## 天皇杯 第19回都道府県男子駅伝 7位入賞 2時間20分17秒 ☆県最高記録を更新

1区の出遅れを2区の塩澤選手（成徳中学）が区間2位の快走で追い上げきっかけを作り、3区以降の選手も順位を上げながらタスキをつなぎ、県最高記録で7位入賞の素晴らしい活躍をしてくれました。

とってはたいへん嬉しいことでもあり、全国インターハイ・国体を控えた三重県にとっても、明るい話題の一つとしてあげられると思います。また、中学生においても、昨年度までも全国大会に多数出場し入賞をしていましたが、特に今年度は、全国中学生大会に6名、全国ジュニアオリンピックに8名が参加する事ができました。その中でも、多気中学校の選手の活躍はめざましく、全国中学生大会では、小林君が棒高跳びで優勝、桜本さんが100Hで3位、全国ジュニアオリンピックでも藤原さんが円盤投げで優勝、桜本さんが100Hで5位、浦田さんが砲丸投げで5位など、全国大会の場で

### 伊勢度会陸協

平成25年度は世界選手権の女子マラソンに野口みずき選手（厚生

大活躍をしてくれました。このことは、小学校との連携の成果だと考えられ、今後の選手育成のモデルになると思います。そして、高校生でも相可高校の油谷さんがハンマー投げで国体優勝など全国レベルで戦える選手を多く輩出する事ができました。松阪地区陸協は規模も小さく、少人数での運営となつていますが、今後も、小中高の合同練習会などを開くなど、連携を大切にした選手育成に取り組みたいと思います。

中学校・宇治山田商業高校卒）、女子5000mに尾西美咲選手（小俣中学校・宇治山田商業高校卒）が出場。出身校の宇治山田商業高校、厚生中学校、小俣中学校の生徒を中心にバブリックビューイングを実施し、たくさんの市民の方にも参加していただきました。今年度は伊勢神宮の式年遷宮の年に当たり、世界選手権期間中は白石曳が行われていたこともあり人が集まるのか心配されましたが、そんな心配を吹き飛ばすほどの方に集まっていたきました。2名とも残念な結果には終わりましたが、先輩の走りを目の当たりにした中学生・高校生には大いに刺激になったと思います。主催し

### 鳥羽志摩陸協

今年度は、三重陸協から10名を超える先生方を講師にお迎えし、8月に「鳥羽志摩地区 陸上競技講習会」を磯部中学校にて共催することができました。当日は、中学生やその指導者を中心に240名ほどが熱心に受講しました。実技指導では、各ブロックに分かれて講師先生の見本も交えながら、初心者にもわかりやすく指導をしていただき、各種目の基本になる動きをしつかりと学んだり、今までに経験したことのないような動きを取り入れた練習をしたりすることで、動きが格段に良くなった生徒がすくなく見られました。参加した先生方からも「指導のコツや練習方法のヒントをもらえた。」「実際に講師の先生がやっている様子や生徒がやっているのを見て、今後の練習に取り入れていきたい。」など、大変好評でした。

このように講習会や練習会、各種大会、市町駅伝等を通して地区の指導者とうしのつながりも深まってきました。平成26年度も引き続き、陸上大好きな選手、三重国体につながる選手をみんなで育てていきたいと思えます。

### 伊賀陸協

伊賀市は、小学生を中心に上野AC・ゆめが丘RC・伊賀TCの

クラブチームが3クラブあります。3クラブそれぞれ今は恵まれた指導者の下、成果を上げていますが、小学校を卒業して中学生になっても陸上クラブのある学校が少なく、陸上以外のクラブに入部する子どもも多く、小学生と一緒にクラブチームでやっている子どももいますが、週一での練習では成果を出すのが難しい現状です。そんな中、12月の都大路の全国高校駅伝で伊賀白鳳高校男子駅伝チームが、しっかりとたすきをつなぎテレビの画面には終始上位で走る選手の姿が、2年連続3位入賞となる活躍が伊賀市民に感動を与えてくれた。

### 名張陸協

24年3月には、4種ではありませんが公認としてトラックを中心にリニューアルし、25年4月には、観覧席や会議室の増築など競技場もよくなり、小学生を対象にした教室を開催するとともに小学生・中学生を中心に高校生・一般のかたも参加できる記録会や大会を計画していますが、今後の課題となります。これは学校統合等でスタッフが増減し、大会運営が心配されます。指導者・スタッフ等の後継者をどのように育てていくかが今後の課題となります。

2014年の幕開けと共に名張市陸上競技協会にとって朗報が届いたので。それは、10年間待ちに待ったグランドの改修が行われることになったのです。そのグランドは、3種公認陸上競技場全天候制トラックです。やっとの思いで名張市が予算を

### 尾鷲陸協

「環境は人を創る・選手を輩出する」を合い言葉として名張市陸上競技協会としてすでに決定している三重インターハイ（平成30年開催予定）や三重国体（平成33年開催予定）に出場できる選手を目指し、すばらしい名張市陸上競技場で競技力を身に付けたいと思っています。

通して下さったのです。一時は今のままでいいかと諦めかけていたこともありましたが、サッカー協会と話し合いを重ね念願のグランド改修に至ったのです。本協会の事業としては、小学生陸上競技教室を始め、県小学生大会の予選会、ナイター記録会、名張市民大会兼マスターズ陸上、ひなち湖マラソン、青蓮寺駅伝大会の協力や毎週月曜日と木曜日に8時から10時まで名張クラブの練習会があります。年齢層は9歳から71歳と幅広く参加人数は、毎40人から60人と活気に溢れています。

「尾鷲陸上競技協会は、平成24年度に山本勇人会長を先頭に組織改革を行い、新しい尾鷲陸協としてスタートを切りました。

平均年齢28歳という県内トップの若い組織となっております。若さゆえ経験は少ないですが、この若さを活かした新しい発想で地域に貢献できるように活動しています。

また、大会や練習会を通して東紀州の交流を深め、東紀州の陸上競技の発展を大きな目標としています。

### 北牟婁陸協

本年度、北牟婁陸協として非常に喜ばしい話題が二つあります。一つは、潮南中学校出身で現宇治山田商業高校1年生の直江航平選手が、国体選手（少年B200m、選抜リレー）に選ばれたことです。大会直前に故障してしまい、本番で走ることができなかったものの、かなり力をつけてきているので今後が非常に楽しみです。

もう一つは、同じく潮南中学校出身で、尾鷲高校、國学院大学を経て富士通で活躍している山口祥太選手が、初めて都道府県対抗駅伝の選手として3区を任されて5人抜きの快走を見せ、三重県チームの7位入賞に貢献できたことです。「美し国三重市町対抗駅伝」の10区の区間記録保持者でもある彼は、残念ながら2月16日に行われる第7回大会には不出場ですが、彼からの刺激を受けて、今回も紀北町チームは7年連続入賞を果たしてくれることでしょう。

### 熊野陸協

本年度、熊野RCには小・中学生合わせて約80名が在籍しています。

練習は毎週土曜日の夕方、熊野市営グラウンドで行っています。また、昨年度より飛鳥中学校グラウンドでナイター練習も行っており、地元小学生を中心練習しています。

本年度の主な成績は、県小学生大会男子走幅跳で、山西勇介（小6）が4m72（+2.5）を跳んで優勝し、全国大会に出場しました。これで、熊野RCとして、3年連続で全国小学生大会の出場となりました。また、男子800mで鈴木良弥（小6）が8位に、女子4年生100mで大江陽菜（小4）が6位に入りました。県の200傑に5人が入るなど、他にも有望な選手がおり、今後が楽しみです。

中学生も、2年連続で熊野RC所属の選手が東海大会に出場するなど、小学生で活躍した選手が継続して頑張っています。

また、本年度は、外部より講師を招いての「陸上教室」や「テニング講習会」を開催し、多くの方に参加していただきました。

指導者が少ないこと、陸上部のある中・高が少ないことが課題ですが、お互いに連絡を取り合いながら小学生・中学生・高校生と継続的な指導ができるようにしています。

今後、熊野地区で陸上競技の輪を広げられるように、熊野陸協として「熊野RC」の活動を中心に活動していきたいと考えています。

## 各部・委員会等報告

### 普及部

平成25年度は、全国小学生交流大会で優勝1名を含む4名の入賞、全日本中学校陸上競技大会では優勝2名を含む4名の入賞、ジュニアオリンピックでも優勝1名を含む5名の入賞と、すべての大会で優勝者を出すという素晴らしい成果をあげていただきました。その中でも、多気中学校においては全国大会で2名の優勝、3名の入賞という素晴らしい活躍で「多気マジック」とも呼ばれました。

いよいよ三重県でも全国大会が開催されることが決まりました。開催されるべき地元での全国大会の成功に向けては、一般選手の補強も必要ではありますが、基盤は三重県内の強化であると思います。小・中学生から高校、大学、一般と末広がりに活躍する選手を育てるためにはそれぞれの連携が不可欠となります。そのため普及部では、

昨年度末の小学校の陸上教室の指導を三重陸協の若手のコーチ陣にお願いしました。またアシスタントとして宇治山田商業の選手をお借りし、各種目のアドバイスや見本の動きを披露していただきました。そのおかげで非常に寒い中でしたが例年以上に熱気があり、小学生もとても楽しそうに活動してくれました。高校生も普段にはない良い経験をしていただいたと思います。来年度以降もさらに工夫を加えながら各場所での連携を図りたいと思っています。

普及部の今後の活動に、ますますのご支援ご協力をお願いしたいと思います。

### 中体連

平成25年度の中体連では、全国大会2種目優勝という快挙を成し遂げました。400m山本フェビアス君（西橋内中）の全国大会決勝での走り、棒高跳小林俊介君（多気中）の全国大会での勝負強さは、みているものに感動を与えました。また、100mHでは桜本怜奈さん（多気中）が3位、走高跳の中出里央さん（伊勢港中）が6位入賞を果たしました。

三重国体、三重インターハイに向けての強化にも力を入れられました。毎年恒例の県強化合宿や県練習会では、力のある若い指導者を前面に出し、内容も一新、活気ある練習ができました。また、東海合宿が初めて行われ、指導者の意識もより全国に向けて活躍できる選手を育てたいという気持ちが高まったようです。

しかし、陸上競技部のない学校で他種目の部活動を持ち、教育活動に励んでいる先生方も多数います。そういう仲間が一人でも陸上競技の指導の場へ戻り、共に力を合わせて活動できるように願っています。

来年度は、岐阜県で東海大会・香川県で全国大会が行われます。多くの選手が全国大会で活躍できることを期待しています。それと共に陸上競技が好きになり、多くの選手が高校で更に大きな花を開

### 高体連

かせてくれることを望みます。

平成25年度もたくさんの高校生が全国や世界の舞台で活躍してくれました。その中でも注目を集めた出来事は年末に京都で開催された全国高校駅伝における伊賀白鳳高校の快走ではないでしょうか。1区の辻野君が昨年の西山君を彷彿させる力走でトップ集団を形成。2区の広瀬君が勢いをつなぎ、3区の近藤君へ。3区では先頭からの走り、4区の川戸君へ。ここからの追い上げは圧巻でした。4区（川戸）、5区（角出）、6区（下）と連続で区間賞を獲得する快走で、優勝への思いを託された7区の中畑君は、終始、堂々と先頭を引っ張り、勝負は競技場内の競り合いへ。2秒差の3位でしたが、見ている者の心を揺さぶりました。昨年の3位とは一味もふた味も違う連続メダルであったと思います。

伊賀白鳳の生徒たちは、大分の全国高校総体の時に移動中の交通機関の中で、全員が座席を譲る行動をとり、地元の方々からお褒めの言葉をいただいたと聞きました。町野先生から受け継いだ中武先生を中心とするスタッフ全員の指導理念が競技成績の上でも大きく花開かせようとしていると思います。伊賀白鳳のモットーである「つなぎの駅伝」を見事に体現してくれました。これからのより一層の活躍を期待します。

夏の全国高校総体には昨年悔しい思いをした坂倉さん（四日市四郷）、濱崎君（宇治山田商業）が入賞してくれたことはとてもうれ

しく思いました。村上君（南伊勢）は非常に安定した投擲を見せるようになり、3位入賞を果たしました。たくましくなったその姿は大変頼もしく見えました。

走幅跳で3位に入賞した松岡君（高田）はインターハイ直前の世界ユース選手権において第4位に入賞しています。中学から将来が囁望された松岡君も高校生最後のシーズンを迎えます。心身ともに一層たくましく成長し、甲府では大記録を打ち立て表彰台の一番上に立つことを楽しみにしています。

秋の東京国体の相可高校の活躍も見事でした。油谷さんのハンマー投優勝は大接戦を制した見事な戦いぶりでした。奥村仁美先生の笑顔が忘れられません。中学時代から加藤邦佳先生（多気中）と二人三脚で3年越しの入賞を果たした中林さんのこれからの活躍も楽しみです。

26年度も松岡君、中林さんのほかにも、男子ハンマー投の東浦君（宇治山田商）など楽しみな生徒が目白押しです。誰がどんな活躍をしてくれるか大いに期待しています。

### マスターズ

三重マスターズの今年度の成果はM40の3000SC（9.32、77）（竹中泰知選手）とM40の4×100mR（44.07）（吉岡・米川・保坂・伊藤選手）のアジア記録です。そして、全日本マスターズ選手権では5名が7種目において優勝、全日本マスターズ混成陸上競技選手権ではM60の男子5種競技で優勝、全日本マスターズ重量5種競技選手権大会ではM75の

重量5種で優勝と好記録を出して頑張っている選手が増えてきています。また、99歳で三重マスターズ陸上選手権参加と三重マスターズ最高齢の選手も活躍しました。平成27年度には三重県で東海マスターズ陸上選手権を控えており、平成26年度にはさらなる活躍を期待しています。

マスターズ陸上は男女共に35歳以上(三重マスターズ陸上は男30歳以上女子25歳以上)であれば、競技成績に関係なく会員になれば、生涯楽しく同年代の人々と競技ができます。5歳刻みであるため、5年毎にクラス別の最若手となり記録更新・上位入賞のチャンスもあります。又、アジア・世界大会へは(M35以上、W35以上)であれば出場できます。気楽に得意とする競技種目を変えて新しいチャレンジも可能です。誰でも気楽に「競技記録志向」もよし「健康管理」もよし、「仲間作りの機会」でも又はこれらの混合型でも、誰にも強制される事もなく自分の体力と人生観に従って競技を楽しめます。このように生涯スポーツの精神の志を持ち、平成26年度が飛躍の年になるように会員数250名を目標に活動します。

### 競技部

スタートに関するルール的大幅な変更があり、その対応に大変ご苦労をおかけしました。

新ルールの徹底には審判のルール熟知はもちろんですが、周知も大きなポイントであることが改めて分かりました。選手・監督だけでなく、観客等に対しての説明も競技運営的には重要な点であること

とです。

最近では、競技会を行うだけでなく、見せる。競技会の運営、との陸連の方針もあります。三重県では、高校総体・国体が予定されており、多方面での皆様の理解と協力が必要となります。

また、運営側として審判のスキルアップにつきましては、ルールの熟知が基本となります。担当部署を基本とし、幅広くルールの理解をいただきご活躍いただきますようお願いいたします。

### 審判部

インターハイと国体に向けて500名の審判編成を想定しています。審判員が減少することも考慮すると、新しい審判員を200名養成していく必要があります。そのために、皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

### 記録・情報部

平成25年度は日本陸連への公認記録申請が、データ申請となったことから、各地区陸協の記録担当者の方には大変お手数をかけました。その甲斐あって、三重陸協のホームページ上での記録更新がスピーディーとなり、選手・監督をはじめ三重の陸上競技ファンのみならず、一定の記録情報サービスを提供することができたのではないかと考えています。平成26年度も記録のデータベース化を一層進め、有益な記録情報サービスが提供できるよう努めてまいります。

また、『平成25年度記録集』も完成しました。ホームページ上で記録が掲載されていることもあり、記録集の販売は年々減少傾向にあります。そんな中、今回は記録集をマイナーチェンジしました。書式は大幅に変更され、内容も一部見直しました。販売は2月下旬です。ご期待下さい。

### 強化部

日頃は強化委員会の活動に、ご理解とご協力を賜り、大変ありがとうございます。

強化委員会としては、国民体育大会と都道府県駅伝大会の2つの大会において、結果を出すべく、選手強化をしていかななくてはならないと考えています。

国体強化につきましては、例年、候補選手のピックアップ作業を秋から行い、三重県選手権後に「オーラル三重」の選手団を編成し、強化合宿を行っています。来年度の長崎国体に向けて、各種目別の練習会を冬季から始め、定期的に実施するように変更しました。

また、三重インターハイ・三重国体に向けて、普及部と強化部とが連携を深めて、中学生とその指導者に対しての練習会を志摩地区と松阪地区にて実施しました。来年度以降もいくつかの地区で実施していく予定です。

また、指導者の先生方に対しても指導者講習会を実施しましたが、今年度はピックアップした選手も一緒に参加して、よいムードで行われました。

26年度以降も積極的に指導者講習会を実施して、選手強化につなげられるように努力していきたいと思えます。

### 技術委員会

努力はもちろん、指導者も器を大きくして、選手との信頼関係を深めながら、トレーニングに取り組みなければならぬと思います。皆様のご協力、ご理解が必要となりますので、よろしくお願いいたします。

① 日本陸上競技連盟競技規則に従い、公式の競技会を開催し得る、陸上競技場および長距離走路ならびに競歩路の公認検定作業を行う。

② 競技場の施設が、「公認陸上競技場および長距離走路ならびに競歩路規程」の各条項に基づき、競技の実施が可能かを確認し、もし不都合があれば管理者と折衝して整備の依頼をする。

③ 器具が規格に合致しているかを確認する。

④ 競技会では、トラック、助走路、サークル、円弧、角度、着地場所等が正しく整備されているかを確認し、得点表、成績表、記録表が用意されていることを点検する責任を負う。

⑤ 競技進行中は、全般的に観察し、絶えず審判長や総務と協議を重ね競技の円滑な進行を図る。

【競技場および長距離走路の公認期日】

- (1) 三重県営総合(陸) 1種 2018年3月30日
- (2) 補助競技場 4種
- (3) (陸)付属長距離走路 2014年8月16日
- (4) 四日市中央緑地(陸) 2B種 2014年3月8日
- 9日検定予定

(5) サルビア(10km)

2014年3月4日検定予定

(6) 鈴鹿市石垣池公園(陸)

3種 2018年3月

(7) 東員町スポーツ公園(陸)

3種 2017年10月15日

(8) 付属長距離走路(10km) 2017年11月14日

(9) 伊賀市上野(運)(陸) 4種 2017年3月29日

(10) 伊勢ハーフマラソン 2016年4月30日

各地区でシティマラソンの企画及び競技者が増加しています。国際大会や招待選手が走る場合、自転車計測でない公認が認められません。長距離走路の公認検定を行う場合は、技術委員会までご相談下さい。

### 医事委員会

本年度の医事委員会の活動に、温かいご理解とご協力をいただき、深く御礼申し上げます。

本年度は、小学生から一般全ての年齢層の大会を対象に、年間12大会延べ24日間のトレーナー・救護活動とスキルアップセミナーに一般の方の参加を募り、コンディショニング等の知識を知っていた

だく活動を行ってまいりました。その中で、新しい活動として、東京開催の国体本大会及び国体合宿への帯同を行い、選手のケア・コンディショニングにあたりました。初めてということもあり、色々不手際や準備不足、また現場での不測の事態に対しての対応等課題も多く、役員・スタッフ及び選手の方々には多々ご迷惑をおかけした点がありました。問題点を修正を致しまして次回に生かして

いきたいと考えています。

また、継続して活動を行えるスタッフの募集・育成も大きな課題となつてまいりました。現在は、学生スタッフが多く卒業後の進路年からは活動の辞退や制限などが出るといったことがあり、なかなか継続が難しいというスタッフが多くいます。活動実績の多少でスキルの差が大きくつく活動です。その対策も考えていきたいと思っております。

来年度も今以上にスタッフのスキルアップを図り、選手の方々安心して臨める大会づくりに尽力して参りたいと思います。

これからも、医事委員会の活動に、ご理解とご協力、そしてご参加いただけますようよろしくお願い申し上げます。

### 女性委員会

本年度、日本陸連の役員改選が行われ、女性委員会が解消されることとなりました。しかし、三重陸上競技協会の女性委員会は、各専門委員会と連携をとり、女性が、それぞれの活動を活性化して頂きたいと思っております。競技は、もちろんですが、審判員や、指導者として、あらゆる場面でプロフェッショナルとなつていただき、女性リーダーの更なる増加と、前進を目指して、活躍して頂きたいと思っております。今後におきましても、女性委員会をよろしく

# 三重県を日本一に 村島諭明先生を偲んで

昨年10月、三重陸上競技協会の村島諭明顧問が亡くなられました。三重陸上競技協会では、理事長（1984年～2002年）や会長（2005年～2008年）を務められ、協会の発展に尽力されました。会長時代理事長を務めた名古屋彦副会長は「笠井先生、向井先生（現顧問）とともに、東海のお荷物と呼ばれた三重県を全国どこに行っても恥じないレベルに引き上げていただきました。ともかく負けることが大嫌いで、強くないといけない、そして何でも日本一でないといけないという考えをおもちでした。また、情報部の新設など、新しいものを取り入れることにも積極的でした。」と話されました。



東ベア（現NTN）や日体大の合宿に参加させてもらったり、一緒に泊まって風呂に入ったりもしました。一方でシーズンオフには「自分たちで考えてやれ」という練習に顔を見せないこともありました。大会準備のため鈴鹿電通学園（現鈴鹿医療科学大学）のグラウンドへ行き、先生が8本釘のついた木を引っぱった後ライオンを引いていました。」と当時のことを話されました。

昭和44年に宇治山田商業に転任され、47年の三重インターハイでは女子総合優勝、男子準優勝を成し遂げ、昭和50年の三重国体・翌年の佐賀国体では監督として、三重県を優勝に導きました。当時、宇治山田商業と一緒に指導された野崎秋副会長は「何でも日本一でないといけない、陸上競技に対しては本当にきびしくよく叱られました。しかし、その後のフォー

ローもしっかりしていただき、よく釣りに連れて行っていただきました。釣りでも、これと決めた獲物がつれないととことんやりまいた。台風が近づいていてもやめず、船が流されそうになり、私が胸まで海に入って船を押



した。日本一になった後も、三重県で核になるチームが必要」ということで、二人の指導体制が続きました。」と話されました。当時選手として活躍しソウルオリンピック代表の小池弘文強化委員長は、「いつもニコニコしてほめられた経験が多かったが、オリンピック出場が決定し、その報告の順序を間違えた時は、しっかりと叱られたことを覚えています。指導者として、練習ではしっかりと準備をし、試合では細かいことを考えず思いきってやる。など大胆さと繊細さを学び、自分自身も実践しています。県との折衝など選手

の環境整備をする仕事をされていましたが、その重要性を今になって実感しています」と話されました。インターハイ、国体に向けて貴重な知恵を拝借することができないのは残念ですが、大会を成功させ、日本一になることが、遺志を継いでいくことになりました。

## 伊賀白鳳高校 二年連続のメダル

昨年末の全国校区駅伝で、二年連続3位の成績を残した、伊賀白鳳高校の中武監督と選手からコメントをいただきました。

三重県立伊賀白鳳高等学校 中武 隼一

全国高等学校駅伝競走大会出場に際しまして、多くの方々からご支援・ご声援いただき誠に有難うございました。今大会は、「指導者が勝たせようとしている間は勝てない」という、町野先生から教わった言葉を大切に、「都大路男女アベック出場」を果たすことが出来ました。

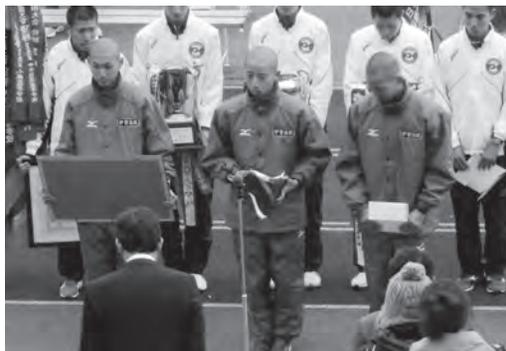
男子は夏場より「チーム内の競争を激化させる」をテーマに取り組み最も層の厚いチームになりました。メンバー発表後、都大路を走れなかった3年生が、「日本一のサポートをする」と役割を全うしている姿を見て、真に強いチームになれたと大会前に確信しました。

当日は、部員39名全員で伊賀白鳳高校らしい「繋ぎの駅伝」に徹し、女子は10番台・男子は優勝を目標に臨みましたが、達成することは出来ませんでした。しかし、



前回大会のゴールから今大会アンカーがゴールする瞬間まで、目標に向かい最後まで諦めずに戦う姿から「日本一のチーム」に成長した生徒たちを誇りに思います。

新チームテーマは「1へのこだわり」。今大会で改めて1秒・1着の重みを痛感し、足元を見つめ直し些細な事にこそ価値を見出し、1番手に



入りたい「1」を求めて取り組みたいと思えます。結果に後悔はありませんが満足してません。「良き競技者である前に、良き高校生であれ」という町野先生の教えを大切に、チーム一同精進します。これからも応援よろしくお願ひします。

「チーム全員で掴んだ3位入賞」  
三重県立伊賀白鳳高等学校 辻野 恭哉

沢山の温かいご声援を有難うございました。結果は先頭

と2秒差の3位で、一年間目標としてきた「日本一」まであと一歩及びませんでした。とても悔しかったです。心は晴れやかでした。前回大会の最終走者がゴールをしてから一年間、チーム全員が本気で日本一を目指してきました。当日も全員男女39名で戦い抜いて掴み取った結果が3位ということの後悔はありません。このチームで一年間戦い抜けたことを誇りに思います。「最初の一步を大切に」という言葉を胸に、素直さと謙虚さを大切に、これから更なる高みを目指して精進します。

「無心で楽しめた都大路」  
三重県立伊賀白鳳高等学校 廣瀬 泰輔

沢山のご支援・ご声援ありがとうございました。本当に数えきれない程の方々に背中を押していただいたおかげで、スタートラインに立った時には大舞台に負いせず「無心」の状態でした。レース中は沿道からの声援とタスキを背負い走らせていただけることに感謝の気持ちと喜びが溢れ出て、初めて笑みがこぼれてしまいました。全チームの中で伊賀白鳳高校が一番この駅伝を楽しんでいたと確信しています。大会を通じて学ばせていただいたことを糧に、陸上競技を心から楽しみ、走りを見て楽しんでほしい元気を与えられるような選手を目指していきたいと思ひます。